



## 笠野 真喜議員

### 義務教育における不登校生の対策は

小中学校の不登校生に対して現在行っている対策と今後どのように接していくのか。

全国で増えている不登校問題で、文科省もいろいろ対策をしているが、30万人の小・中学生の不登校がいる。熊本県では、小中学生が5353人、高校生が770人いる。前年に比べ、小中学校で1200人、高校で199人増えた。熊本県は、全国で4番目に不登校が多い。本村では、児童15人、生徒18人、計33人が長期欠席扱いとなっている。

不登校生の児童生徒が増えた要因は、学校に対する価値観の多様化やコロナ禍で、学校を休むことに対する抵抗感が小さくなったことが挙げられるのでは。学校における人間関係や遊び、非行はないが不安・無気力・その他がある。今回、不登校を減らすことを考えた。

### 学校以外での遊び方と進路

笠野議員

本村は、児童15人、生徒18人、計33人が長期欠席者扱いとなっている。学校以外での学び方は、教育支援センター「ふらここ」に現在12名が利用している。不登校生の状況を把握することは難しいが、根気よく支援されている。不登校生だった生徒も今は高校や専門学校のことを考えている。今後ともお願いしたい。

### 高校進学等も可能

教育長

教育センター「ふらここ」での学び、その他児童家庭支援センター「ふわり」、児童発達支援多機能型事業所「き・き」、相談支援センター「ケルン」などがある。中学生における進路は、不登校であっても高校へ行きたいと進学意思を示せる生徒に対しては、高校進学等も可能である。



教育センター「ふらここ」

### クラス担任が対応しているが専門の先生に任せては

笠野議員

毎朝不登校生の状況把握や指導を担当の先生が対応しており、相当な負担になっている。先生のことも考え不登校生対応の先生が必要では。

### 各学校で対応している

教育長

担任以外に養護教諭、管理職等で対応するスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等外部の関係機関にお願いするなど積極的な活用を図り、各学校で対応している。

### オンライン授業やホームスクールは

笠野議員

仮想空間で話したり、クラブ活動に参加したり、VR空間やメタバースなど、学び環境・学習スタイルを合わせれば不登校生という概念がなくなるのでは。ホームスクールは、家庭を拠点として教育してはどうか？

### オンライン授業は中学校で実施

教育長

オンライン授業は各小学校では行っていないが、中学校で実施している。しかし、パソコントラブルでうまくつながらなかったり、つながっても一方通行の授業になることが多く授業内容がわかりづらいことが懸念である。

### 塾や習い事の活用は

笠野議員

児童生徒が学校に行きたくないとき、習い事に行くなど気軽に選択できることで、学校が苦手な子どもも頑張るのでは。学校だけで学びを完結せず、いろいろな教育サービスを合わせ選べるスタイルにしては。

### 各学校取り組んでいない

教育長

塾や習い事は各学校取り組んでいない。